

『体制の歴史』 合評会



生存学研究センター若手強化型プロジェクト『歴史社会学研究会』のメンバーを中心に、『体制の歴史——時代の線を引きなおす』天田城介・角崎洋平・櫻井悟史編著を公刊しました。今回は、藤原辰史氏、中田英樹氏のお二人をお招きし、同書の合評会を行います。「メジャーな体制が取りこぼしてきた人々や問題や生活のあり様から、別の「体制」といった視座を打ち立てることで、これまでの「体制」の歴史に新たな分断線や補助線を引くことを企図している」という同書の取組について、活発な議論が交わされることを期待していますので、是非ご参加ください。

天田 城介・角崎 洋平・櫻井 悟史編著 20130331
『体制の歴史——時代の線を引きなおす』, 洛北出版、608p

【評者紹介】

- ◆藤原辰史 京都大学人文学研究所准教授。農民史、農業思想史、農業技術史。主な業績に、『ナチス・ドイツの有機農業——「自然との共生」が生んだ「民族の絶滅」』（柏書房、2005年、第一回日本ドイツ学会奨励賞）、『カブラの冬——第一次世界大戦期ドイツの飢饉と民衆』（人文書院、2011年）、『ナチスのキッチン——「食べること」の環境史』（水声社、2012年）
- ◆中田英樹 明治学院国際平和研究所助手。農業経済学、農村社会学。主な業績に、『トウモロコシの先住民とコーヒーの国民——人類学が書きえなかった「未開」社会』（有志舎、2013年）、Elias, Silvel y Nakata Hideki (eds.) 2010. Sociedad intima de campesinos indigenas e integracion nacional del Estado capitalista: Un texto para el debate sobre el desarrollo rural en Guatemala para el siglo XXI, Guatemala: Serviprensa.

11月13日（水） 17：00

衣笠キャンパス創思館303・304

事前参加申し込み不要

ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

問い合わせ先：立命館大学生存学研究センター事務局

TEL075-465-8475 FAX075-465-8245

E-mail : ars-vive@st.ritsumeai.ac.jp

主催：立命館大学生存学研究センター